

部課名		経済観光部産業政策課											
課の使命		<p>○町田商工会議所や町田新産業創造センター等の事業者支援機関と連携し、事業者の創業期、拡大型、承継期などの様々なステージに応じた支援を行うことで、市内産業の活性化を図ります。</p> <p>○市内経済の中心である中心市街地において、都市再生推進法人をはじめ、中心市街地で活動する団体、企業と協力して一層の賑わいを創出します。</p> <p>○経済観光部内の連絡調整並びに部内の事務事業の執行計画の調整及び進捗管理を行います。</p>											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定					中間確認			年度末確認					
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	-	顧客へ届く魅力・情報発信	<p>対象とする顧客(起業・創業希望者、市内中小事業者、中心市街地の来街者等)へ、町田市の魅力や価値ある情報を届けるため、既存媒体の改善及び新たな取り組みを行います。</p> <p>なお、課全体で魅力・情報発信を行うことで、担当業務の枠を超えて仕事に取り組む組織風土を醸成します。</p>	市ホームページ(産業政策課の事業ページ)の閲覧数	2023年度比110%	○	<p>4月から、職員の名刺の裏に市内事業者向けの融資・支援情報や、シバヒロのイベント情報等のQRコードを掲載し、名刺交換や窓口対応の際に事業のPRを行う等、一人一人が情報発信に努めました。6月には市ホームページの見直し、新たなページを作成する等の取り組みを行い、閲覧数は2023年度比132%となりました。</p>	<p>引き続き、市ホームページの改善を図るとともに、積極的に情報発信を行います。</p> <p>課で保有するSNSアカウントを整理し、より顧客へ届く情報発信を行います。</p>	<p>会計年度任用職員も含めた全職員で情報発信に取り組み、担当業務の枠を超え、意見を出しあい、課員の意識の醸成を図りました。</p> <p>情報発信を強化する中で、課で管理しているSNSの運用について計画的に見直しを行い、検討の結果、全年齢層に受け入れられているInstagramアカウントの開設を行い、関係支援機関の事業もPRできる媒体を開設しました。市内外からの来場者の多いキラリ☆まちだ祭で開設のPRを行うなど、タイミングをとれた発信を行いました。</p> <p>情報発信のソールを増やすことに伴い、既存の市ホームページの見直しを図り、新たなページの作成や絵や図を取り入れることで見やすいページ更新を図ったことにより、閲覧数は2023年度比180%以上となりました。</p>	2023年度比180%以上	B	B:市職員だけではなく、関係支援機関の職員とも連携し、取り組んでいくことが出来たためです。	顧客に届きやすい情報の発信を継続して行う必要があります。
2	重点事業プラン	中心市街地活性化の推進	<p>「町田駅周辺地区」都市再生整備計画に基づき、原町田大通りに滞留空間(※)等整備工事を行います。</p> <p>整備完了後の管理、運用について、都市再生推進法人(株式会社町田まちづくり公社)とともに検討を進めていきます。</p> <p>(※)「滞留空間」来街者が休憩などに使える憩いのスペースのこと。</p>	滞留空間、歩道拡幅部、荷捌きスペースの運用開始	2025年2月3月運用開始 ※都の完了検査が3月12日に決まったため、3月運用(供用)開始としました	○	<p>6月から滞留空間等整備工事に着手し、予定通りに進んでいます。</p> <p>工事着手にあたっては、5月に周辺住民や地元店舗等を対象に工事説明会を実施しました。また、沿道店舗や地元商店会等に対し、戸別訪問や会合等において事前説明・意見交換を重ねるなど、丁寧に調整しながら進めており、大きな混乱は生じていません。</p> <p>整備完了後の管理、運用について、都市再生推進法人と検討を進めてきました。</p>	<p>予定通りの工事完成を目指します。</p> <p>管理体制を構築し、スムーズな運用開始を目指します。</p>	<p>歩行者や商業活動への影響を最小限にするよう、施工業者、関係機関と調整を重ねながら工事を進め、事故や混乱もなく工事を完了しました。</p> <p>中心市街地のイベント(フェスタまちだ、町田天満宮秋季例大祭、キラリ☆まちだ祭)の際には、地元商店会、自治会等と綿密に情報共有し、安全にイベントを開催するとともに、今後のまちづくりを見据えた地元との対話の場をつくることができました。</p> <p>都市再生推進法人とともに、「町田駅前交流拠点 はっとまちだ」を拠点とした原町田大通りの管理、運用についてスキームを構築しました。</p> <p>2025年3月に「はっとまちだ」とともに運用を開始し、中心市街地における憩いと賑わい空間を創出しました。</p>	・2025年3月運用開始 ・「町田駅前交流拠点 はっとまちだ」営業開始 ・「町田駅前交流拠点 はっとまちだ」を拠点とした原町田大通りの管理、運用スキーム構築	B	B:施設完成にあわせて、都市再生推進法人を中心とした運用スキームを構築したことで、原町田大通り一体を活用した賑わい創出が可能となったためです。	都市再生推進法人とともに、原町田大通りを活用し、休憩や飲食ができる空間の提供や、様々なイベントの実施により、憩いと賑わいを創出します。
3	-	地域経済現況調査	<p>事業者が抱える課題を把握するため、関係機関(町田商工会議所、金融機関等)との連携により、町田市経済の現況を調査、分析、発信します。</p> <p>市内中小事業者や各産業支援機関等が求めている調査内容を把握するため、ヒアリング調査を実施します。</p>	ヒアリング調査実施数	100件	○	<p>地域経済現況調査の前(5月～6月)に、市内中小事業者や産業支援機関等に対し、事業者が抱える課題を把握するためのWEBヒアリングを実施し、140件の回答を得ることができました。</p> <p>WEBヒアリングの結果を踏まえ、町田商工会議所や町田市経営診断協会と連携し、コスト、人材、IT等に関する地域経済現況調査を9月に開始しました。</p>	<p>地域経済現況調査を進め、分析結果を発信します。</p>	<p>職員が市内中小事業者や産業支援機関等に直接ヒアリング等を行い、140件の回答を手に入れることが出来ました。</p> <p>これにより、市内経済の現状を把握し、産業振興計画の着実な推進につなげるとともに、次期計画の策定に向け、今後も産業支援機関等と連携して取組を進めていくうえで一体感や関係性を強くすることが出来ました。</p>	140件	B	B:産業支援機関を含む町田で、課題について共通認識としてスタートを切ることができたからです。	事業者支援の取り組みを効果的・効率的に進めるため、引き続き市内産業の状況を的確にとらえる必要があります。

部課名		経済観光部観光まちづくり課											
課の使命		市民にとっては地域に愛着を感じ住み続けたいとなるような、来訪者にとっては何度も訪れたいとなるようなまちを実現するため、観光まちづくりを推進します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定						中間確認			年度末確認				
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	「町田薬師池公園四季彩の杜」魅力向上の推進	・町田リス園基本計画を策定します。 ・春と秋に四季彩の杜の各施設が連携したイベントを実施します。	①基本計画の策定 ②イベントの満足度	①完了 ②80%以上	○	①町田リス園の現況調査や来園者・WEBアンケート調査、横断歩行調査等を実施し、町田リス園に必要な機能やニーズの把握を行いました。庁内では関係部署と町田リス園の方向性について検討しました。また、関係団体との意見交換、他市のリス園へ視察等を実施しました。 ②町田薬師池公園四季彩の杜で、4月12日から5月6日まで、エリア内の9施設で連携した「春フェア2024～花の便り～」を開催し、延べ17万人の来園がありました。イベントの満足度は98%でした。	①引き続き、庁内での検討や関係団体への意見交換を実施します。12月に素案を完成させ、市民意見募集を実施し、3月に基本計画を策定予定です。 ②秋の大型イベント「秋遊び2024」(10月1日～12月1日)を開催し、各施設で行うイベントの一体的なPRを行います。	①関係部署会議や来園者・WEBアンケート調査、他市のリス園視察等を通して町田リス園のリニューアルに向けた方針等について整理しました。また、関係団体へ町田リス園リニューアルの方針について説明を行いました。計画の策定時期は後ろ倒しとなりましたが、将来的な施設の管理運営について、整理しました。 ②四季彩の杜の各施設が連携したイベント「春フェア2024」や「秋遊び2024」を開催しました。とくに、「秋遊び2024」では、薬師池に雲海を出現させる演出等を行ったことで、期間中の来園者は延べ33万人、イベントの満足度は98%と、多くの方楽しんでいただくことができました。イベントの満足度は、春秋ともに98%となり、昨年度よりも向上しました。	①骨子完成 ②98%	C	C:目標水準を達成したためです。	①引き続き関係部署や関係団体との意見交換や市民意見募集を行い、町田リス園基本計画を策定します。 ②四季彩の杜が何度も訪れたいとなる魅力的なエリアとなるよう、各施設と連携したイベントの開催や、効果的な情報発信を継続していく必要があります。
2	重点事業プラン	町田市に来訪するJリーグサポーター向けの魅力発信	Jリーグサポーターに向けて、町田市の魅力を伝えるようなプロモーションを展開します。	①町田市内の観光ツアーの実施回数 ②ビジターサポーターに向けたシティセールスの実施回数	①2回 ②3回	◎	①ビジターサポーター向けに、四季彩の杜や小野路宿里山交流館などをめぐる町田市内観光ツアーを2回実施しました。 8月 ジュビロ磐田向け(6名参加) 9月 アルビレックス新潟向け(18名参加) ②-1 アウェー会場でのシティセールス活動(観光マップの配布や観光案内の実施など)を2回実施しました。 ・アウェー会場にPRブースを設置 4月 ヤマハスタジアム ジュビロ磐田戦 228名来場 8月 デンカビッグスワンスタジアム アルビレックス新潟戦 292名来場 ②-2 当初予定していた活動に加えて、鶴川駅でもビジターサポーターに向けたシティセールス活動を2回行いました。 ・鶴川駅にPRブースを設置 5月 東京ヴェルディ戦 146名来場 6月 アルビレックス新潟戦 105名来場	①実施した町田市内観光ツアーの内容を振り返り、効果や課題等を整理します。 ②来年度以降のJリーグサポーター向けのシティセールス活動について、検討を進めます。	Jリーグ2024シーズン開催中に新しく町田市を訪れるJリーグサポーターに向けて、プロモーションを展開しました。 ①ビジターサポーター向けに、町田市内の観光スポット巡りや体験、地元料理を提供するツアーを企画し、2回実施しました。(計24名参加) 参加者募集の際には、対戦チームの後援会やホームタウンの観光協会と連携し、ビジターサポーター向けに情報発信しました。SNS上での反応もあり、ビジターサポーターの参加者から好評でした。 ②-1 町田市でのアウェー戦を控えたビジターサポーターを町田市での試合観戦に呼び込むために、アウェー会場でのシティセールス活動(観光マップの配布や観光案内の実施など)を2回実施しました。(計520名来場) 会場のブースでは、町田市の観光PRに加えて、アンケートを実施し、ビジターサポーターの観光ニーズの把握に努めました。 ②-2 当初予定していた活動に加えて、多くのサポーターが利用する鶴川駅でもビジターサポーターに向けたシティセールス活動を2回実施しました。(計251名来場)	①2回 ②4回	B	B:当初の目標を上回る成果があったためです。	①実施した町田市内観光ツアーでの改善点や課題を踏まえ、2025年度のプロモーションに活用します。 ②2024年度に実施したシティセールス活動の経験を踏まえ、2025年度のプロモーションに活用します。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
3	重点 事業 プラン	デジタルラ リーの実施	アニメ等の映像作品のコンテンツとデジタル技術を活用したイベントを実施します。	参加者の満足度	80%以上	○	デジタルラリーのイベントを秋に開催できるよう、東京都への補助金申請や事業者との協議を行い準備を進めました。	引き続き、イベントの開催に向け準備を進めるとともに、イベントに関する情報発信を行います。	11月1日から12月26日まで「町田市×デート・ア・ライブVコラボイベント」として、アニメコンテンツを活用した、デジタルスタンプラリーやX(旧Twitter)を使ったハッシュタグキャンペーン、フォトスポットの設置を行いました。アニメの公式アカウントや町田市観光コンベンション協会による情報発信により、参加者数は延べ1,818人、参加者アンケートでは満足度が82%となりました。	82%	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続きデジタル技術を活用し、市への来訪の契機となるイベントを実施します。
4	事務 事業 見直し	町田小野路 宿里山交流 館の管理に係 る事務(事務 事業見直し)	施設前にある駐車場の利用提携契約について内容を見直し、認証機を導入することで業務の効率化と来館者のサービス向上を図ります。さらに、認証機でカウントされるサービス券の利用実績に応じた支払いに変更することで費用を削減します。	駐車場利用提携契約で 支出される費用	305千円削減 (2023年度 比)	◎	駐車場の利用提携契約を見直し、利用実績に応じて料金が設定される単価契約に変更したことで、9月末時点で2023年度同時期と比較し、約162千円削減できました。さらに、新しい機器の導入により、駐車サービスの手続きが簡略化され、従業員の作業負担が軽減されただけでなく、無料駐車時間の延長が可能となり、利用者サービスも向上しました。	無料サービスの利用状況を注視しながら、駐車場利用提携契約での支出が削減されていることを確認します。	無料サービスの利用は2023年度と比べて約400件増加し、想定よりも多い2,110件になりましたが、駐車場利用提携契約の見直しにより、支出は2023年度と比べて322千円削減しました。	322千円削減 (2023年度 比)	B	B:駐車場利用者が増えた中でも、費用を削減することができました。	無料サービスの利用状況を注視し、事業内容を必要に応じて見直します。

部課名		経済観光部農業振興課											
課の使命		○「市民と農をつなぐ」魅力ある町田の農業を実現します。 ○「住む人も 訪れる人も 居心地のよい まちだの里山」を実現するため、多様な主体との連携・協働により里山環境を活用し、町田ならではの「新しい里山づくり」を推進します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定				中間確認				年度末確認					
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	里山環境再生・活用拠点施設の基本的事項の決定	事業者の参画に影響する課題についてマーケットサウンディング調査を実施し、施設の規模や場所、民間活力の導入が図れる事業スキームを決定します。	施設の規模や場所、事業スキームなどの決定	完了	○	「里山環境の再生・活用拠点施設のあり方に関する基本構想」について、地域住民を対象とした意見交換会を開催し、拠点施設を活用した事業案などについて意見を伺いました。また、基本構想において整理した課題の解決に向け、施設機能に関連する事業者を対象としたマーケットサウンディング調査に着手しました。	マーケットサウンディング調査の対象事業者から事業提案を受け付け、施設の規模や場所、民間活力の導入が図れる事業スキームを決定します。	・民間活力を導入した拠点施設整備に向けて、関連事業者を対象としたマーケットサウンディング調査を実施し、提案を受け付けました。その結果、まちだの里山における活用可能な木材資源の樹種や量などが把握できれば活用の用途について具体的な検討ができるとの意見をいただき、今後取り組むべき課題と認識しました。 ・市内関係部署と拠点施設整備に関する都市計画法等の制限について条件整理を行った結果、法令に即した施設の規模や場所など整備の方向性を定めることができました。 ・拠点施設の機能のひとつである木材活用について、市庁舎1階のイベントスタジオにおいて、市民団体や事業者などと連携し、里山環境の再生や木材・竹材など里山資源の活用に関する取り組みについてPR展示を実施しました。その結果、玉川大学と連携したPR展示の機会を設けることができ、山林や竹林の活用の重要性を市民、特に大学生などの若い世代に発信することができました。今後も取り組みを継続し、機運醸成を図る必要があります。	完了	C	C:目標水準を達成したためです。	・木材活用の推進に向けて、里山資源に関する調査が必要です。 ・引き続き、事業者や市民との対話と里山資源の活用に関する情報発信を行うなど、里山環境の再生・活用に関する機運醸成を図ります。
2	重点事業プラン	地産地消の推進	①町田産農産物「まち☆ベジ」をより多くの市民に知ってもらうため、多様な媒体を通じたPRを行います。また、子育て世帯に対し、市内の直売所へ継続的に来ていただけるようなイベント等を実施します。 ②子育て世帯のライフスタイルに合った新たな販売方法を検討するためのニーズ調査を行うとともに地産地消の試行的な取り組みを進めていきます。	①子育て世帯のうち「まち☆ベジ」を購入したことがある人の割合 ②ニーズ調査の実施	①*860% ※当初想定していた割合より増加が見込めたため、目標値を変更しました。 ②実施	○	準備を進めていたアグリハウス鶴川でのイベントは急遽中止となりましたが、JA町田市と子どもセンターまあちと連携し、夏野菜を使った調理イベントを実施し、効果的な「まち☆ベジ」および市内の直売所のPRの機会となりました。	子育て世帯にまち☆ベジや直売所をPRするため、近隣の子ども向け施設と連携し、11月にアグリハウス鶴川とグラントオープンするアグリハウス生でイベントを実施します。イベントに会場した子育て世帯に対してニーズ調査をおこないます。また、12月には子育て世帯(小学生とその保護者)へ「まち☆ベジ」の購入実態に関する調査を実施します。	①子どもセンターやアグリハウスでの「まち☆ベジ」PRイベントを実施した結果、多くの子育て世帯がイベントや直売所に来場し「まち☆ベジ」を購入したことで目標値を上回ることが出来ました。今後、更に購入率を上げるために、引き続きイベントを継続するとともに、新たな手法についても検討し、実施していく必要があります。 ②アグリハウスでのイベント時や市内小中学生の保護者に対して「ニーズ調査」を実施した結果、直売所の営業時間や受け取り方法に課題があることが分かりました。保育園や幼稚園での受け取りのニーズが高いことから、JA町田市と連携し、実施に向けた検討をする必要があります。	①69% ②実施	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	①より多くの市民に「まち☆ベジ」を購入してもらうために、引き続きイベントを実施するとともに、新たな手法について検討します。また、3月に発行した「まち☆ベジBOOK」等の広報媒体を通して、子育て世帯へ「まち☆ベジ」や直売所を広く知ってもらうようにPRします。 ②調査結果を分析し、子育て世帯のライフスタイルに合った市内産農産物の効果的な販売方法と野菜の受け取り方法を検討します。
3	重点事業プラン	山林の再生と活用	里山で活動している団体等に未活用山林の活用を働きかけるとともに、再生活用を目的とした計画的な樹木伐採を行います。(現状 42,000㎡)	山林再生に新たに着手した面積	累計48,000㎡ (6,000㎡増)	○	新たに里山を活用した取組を検討している1団体に対し、山林の再生活動の開始に向けた調整と支援を行いました。 里山で活動している団体と連携して、調査で特定した枯損木の伐採が必要な枯損木を特定しました。	団体に対し山林の再生と活用が円滑に行えるよう必要な支援を引き続き実施します。 引き続き団体と連携して、調査で特定した枯損木の伐採を計画的に実施します。	団体に対し山林の再生活動に向けた支援を行った結果、小山田エリアにて、未活用の市有山林約14,000㎡の再生と活用を開始することができました。(累計56,000㎡)	累計56,000㎡ (14,000㎡増)	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、既存の団体等へ未活用山林の再生と活用に係る働きかけを実施します。また、ナラ枯れ調査を継続し、枯れ具合が進行している枯損木を特定していきます。

年度目標設定					中間確認			年度末確認					
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	個別 計画	農業研修修了生への農地貸借についての制度化	農業研修を修了した新規就農希望者への農地貸借にかかる制度作りを行います。	新規就農用地の農地貸借の制度作り	完了	○	農地貸借にかかる選考基準及び選考方法の素案を作成しました。また、素案を検討する過程で、委託事業者にヒアリングを行いました。	農業委員会の意見を参考に農地貸借にかかる選考基準及び選考方法を決定します。2025年度からの農地貸借に向けて候補者の選考を行います。	農業研修修了生を対象とした市有農地貸借制度の2026年度からの実施に向け、応募要件や農地貸借条件などを決定しました。また、制度の運用面での課題等を検証するため、2025年度に制度を試行することとし、農業研修修了生の中から市有農地貸借の相手方3名を決定しました。	制度作り完了 制度試行の準備	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	2026年度からの本格実施に向け、2025年度の制度試行により運用面での課題等を検証し、必要に応じて農地貸借条件等の改正を行います。
5	事務 事業 見直し	活用が見込みがない土地の調査	見込みがない土地の売却または有償貸付に向け、北部丘陵整備事業用地の現地調査方針を決定します。	現地調査方針の決定	完了	○	十分に活用が図られていない事業用地と活用団体をマッチングさせるために必要な情報や、調査着手の優先順位などについて考え方の整理を行い、現地調査の方向性を決定しました。	2025年度からの現地調査開始に向け、土地の現況データと土地利用上の留意点をまとめるための現地調査カルテと、調査着手の優先順位の検討を行い、調査方針を決定します。	土地の現況データと土地利用上の留意点をまとめるための現地調査カルテを作成し、調査の方針を決定しました。2025年度からの現地調査に向けて、準備を整えることができました。	完了	C	C:目標水準を達成したためです。	作成したカルテ及び決定した調査方針に基づき、順次現地調査を実施していきます。